

ひたちの文化

2 エッセイ⑩⑧ 金澤 和成さん

- 3 日立市文化少年団ご紹介②
- 3 日々を詠む⑩① 選・評 榎村 奎子さん
- 4 My 仕事⑫② 谷口ヴァイオリン工房 谷口 能敬さん



ふるさと探訪パートⅡ⑧②

- 10Qじいじさんのちょっと笑える夜空のお話し⑪ 6
- 常陸国まつり歩き⑩① 長江 慶治さん 7
- ひたち街角小劇場10周年記念公演のご報告 8



「桜の架け橋」

撮影：和田 浩司さん（滑川本町在住）

撮影場所：日立駅

薄暗い夕暮れ時は人の顔を見分けにくくなり、「誰だあれは」という意味で「誰をそ彼かれ」と言ったことが黄昏の語源とされる。その黄昏時、多賀山地の峰に沈んだ夕陽はその身を完全に隠した。山の端に残っている夕焼けもやがて間もなく薄れ、辺りは夕闇に包まれる。入れ替わるように灯りがぼつぼつと点りはじめ、徐々に街は夜の姿へ変わる。年の瀬、駅前の一角はイルミネーションの明かりによって普段とは違った表情を覗かせる。

海を指すかのよつに伸びる日立駅の空中通路を、家路へと急ぐ会社員や学生たちが行き交う。仕事や学業で疲れているだろうが、その足取りに重さは感じられない。同僚や友人と屈託なく言葉を交わす表情からは、束縛から解放されたれ寛いでいる様子が読み取れる。「お疲れ様」または「明日」。改札の先で挨拶を交わす人たちは、これから別々の電車に乗るのだろう。

改札口の手前でじっと佇み、家族の帰りを待つ女性が居る。時折吹き抜ける木枯らしに身をすくめながらも、その背中からはどこか温もりを感じさせる。やがて駅のホームからどっと人が出てくる。その中から待ち人の姿を見つけて一気に表情が緩む。「おかえり」「ただいま」。帰りを待つ人の存在、それだけでどれだけ心に安らぎがもたらされることだろう。

何気ない、しかしかけがえのない日常の一コマ。今日もさまざまな思いを抱きながら、人々は駅を利用する。それぞれの行き先は異なれど、その足取りは皆一様に明日へと向かっている。



ハレニコ！遊び場、ボールプール、おままごと

私がH・i・タツチらんど・ハレニコ！（以下、ハレニコ）に勤めるようになったきっかけは、家内の紹介があつたことだ。定年退職後、まだ体力のあるうちに、「長野県に数ヶ月移り住んで、名山に登っては温泉三昧の生活をする。」と密かに画策していたところ、家内から「ハレニコ」という子供の遊び場があつて、猫の手も借りたいので手伝ってあげてね。素敵な奥様達働いているし、楽しいと思うわよ。」との一言で、ちよっぴり気持ちが揺らぎ、後日、ハレニコの管理母体であるNPO法人『子ども大学常陸』

お母さん、お父さんが懸命に子どもと一緒に遊んで遊ばないで、時には、帰りたいくらいの子もいるが、子どものすることすべてがいとしくてたまらない。やはり子どもは

の理事長にお会いした途端NPOが掲げる理念に共感した私は「手伝わせてください」とあつさり夢を捨て猫の手になつてしまったのである。ハレニコ！に勤めてもうすべ

他に、「子ども大学常陸」の目的の一つとなっている、子ども

「宝」だ。登山と温泉三昧も魅力的だが、どうやら私には、ハレニコ！が性分に合っているようだ。ハレニコ！は、屋内の遊び場施設である。日立駅前の旧イトーヨーカドーがテナントで入っていた施設の4階にある。今は日立SC（ショッピングセンター）という。人気上位の遊具は、ボールプール、トランポリンのように跳ねるエアークャッスル。女の子には、おままごとセットも定番だ。先日は、ばんだーるくん



田切ゼミ（日立の化石を探そう）

に貢献できればとてもうれしい。ハレニコ！が、それでいい。



ハレニコ！

託児も行っているが、利用実績はまだ少ない。将来は、立地の良さを生かして託児を含め利用実績を増やしたい。子育てしやすい日立市のイメージが定着し、「子育てをするなら日立市だ！」と周辺市町村からも語られる域に達したいものだ。少しでもハレニコ！が、それでいい。

エッセイ 108 子どもは私たちの「宝」

金澤 和成



金澤 和成(かなざわ かずなり)

日立グループ会社を定年退職後、NPO法人「子ども大学常陸」で事務局を担当。来年は、ハレニコ！で小学生を対象に「ウクレレ講座」を計画中。簡単コードで「踊るボンボコリン」を弾いて歌う内容だ。子どもや高齢者の脳に効く「音楽ゼミ」にも取り組んでいく。



ばんだーるくんとねばーる君



出張ハレニコ！

ほっこり！素敵な出会い

結婚式が挙げられたんです

市民会館は昭和50年代まで市民の結婚式と披露宴の会場としてとても賑わっていたという。当時は社会が豊かになり、増加する式の需要を公的施設が受け止めていた時代だった。暦によっては朝から晩まで予約でいっぱいになったため、絶対にダブルブッキングは許されなかったという（結婚式に限ったことではないが）。しかし、年々結婚式の利用件数は減少の一途をたどり、平成に入ると皆無となった。結婚式場関連施設は次第に別の用途で活用さ

れるようになっていった。窓が無かった式場は、現在倉庫として活用されている。まず、会議室より壁紙が豪華。そして床は赤絨毯（倉庫なのに！）。展示パネルを片付ける時、厳かな空気を感じるがあった。（倉庫として丁度よい広さで、本当に重宝している。）今まで何組のご夫婦がここで式を挙げ、幸せな家庭を築いたのだろうか。荷物を運びながら思いを馳せる。これも市民会館の歴史の1ページである。

まちのサロン 市民会館

さまざまな文化に触れよう！ 日立市文化少年団ご紹介 ②

日立市文化少年団をご存じでしょうか？日立市では現在25の文化少年団がさまざまな分野で文化活動に取り組んでいます。どの団体も幼少期から多様な文化に触れ、日本の伝統文化や新しい生活文化を学ばせることを目的としています。また、次世代への文化の継承という意味でも文化少年団は大切な役割を担っています。毎号2団体ずつ、本誌面で紹介してまいります。

日立書道連盟

現在、私たち日立書道連盟には、会員登録者が約275名、市内に約30名の指導者があります。

それぞれの教室で毛筆による文字を綺麗に形よく、楽しく書けるよう指導しております。

ひたちこども芸術祭では、毛筆を初めて体験するお子様もあり、最初の出会



日立書道連盟の案内

活動日時 年間をとおして活動（活動日は教室ごとに異なります。）
 会場 市内各教室
 会費 体験学習として2回は無料。その後は指導と相談のうえ決定。
 参加資格 なし
 その他 入団を希望する場合、問い合わせ時にお近くの教室を紹介します。
 問い合わせ 日立書道連盟 小山さち子 0294-42-2698

いを大切にしています。書へんことも大切ですが、集中力を高めることも重要視しています。小・中学校の書道指導も随時行っており、その他、茨城新聞紙上展任意、J・A共済茨城県小・中学生書道コンクール展（夏休みの宿題などを指導するなど、日本の伝統文化である、書への一助になればと願っています。）



日立フラサークルレファ

日立市文化少年団「日立フラサークルレファ」は、2004年から活動を始めたハフイの伝統舞踊のフラを学んでいる少年団です。アロハの心である愛を大切に、一緒に踊るフラシスター達と心を合わせて笑顔で丁寧に踊ることを目標に練習を重ねています。フラの曲の多くは愛や自然への感謝を語っており、私たちはフラを通して太陽の輝きや花の美しさ、荘厳な山々や大切な人への愛を学び、それを笑顔で踊りながら表現します。最初は誰でも上手く踊る事は出来ません。しかし



日立フラサークルレファの案内

活動日時 月3回土曜日 15:00～16:00
 会場 スタジオBell（東金沢町）
 会費 3,000円/月
 参加資格 概ね3歳から（親子も歓迎）
 問い合わせ 富岡かず恵 0294-35-6458

日々練習を重ねる事によって子どもたちは可愛い笑顔で素敵にフラを踊ることが出来るようになりま。そして子どもたちはフラを見た方々から褒めてもらっていること、自信がつき、その自信が子どもたち自身の成長へ導いてくれている

と信じています。土曜日の午後3時から練習をしていますので、フラを始めてみたい方はぜひお待ちしております。



日々を詠む

《選・評 櫻村 奎子》

秋晴れの続く春のようなあだやかな午後である。用事を終えての帰り道、いつもより少し手前でタクシーを降り、野の道をゆつくり歩く。八十歳を超えてなお、心にわだかまりのない日常をさりげなく詠んでいて共感を覚える。

タクシーを手前で降りてしばらくを歩いて帰る小春日の午後

黒澤 正則

（作者は多賀短歌会会員）

My 仕事

楽器本来の力を呼びおこす

谷口ヴァイオリン工房

谷口 能敬さん
(高鈴町)

海が見える静かな住宅地にその工房はあった。この仕事を始めて8年。ありがたいことに今では県外の方からも依頼があります。「ヴァイオリン工房の職人谷口さんは穏やかに微笑んだ。谷口さんはひたしジュニア弦楽合奏団や日立交響楽団の楽器のメンテナンスも引き受けており、利用者からの信頼は厚い。そんな谷口さんにお話を伺った。



東京生まれ、千葉育ちです。大学を出て就職した企業の日立の事業所に赴任し、そこで初めて日立の地を踏みました。転勤族でしたので海外勤務も多かった。25年前に日立に家を持ちましたが、なかなか落ち着きませんでしたね。

海外の大気汚染のひどい地域に勤務をしていて体調を崩してしまつた時期がありました。帰国して東京に配属になったのですが、しばらく

体調が戻らず苦しみました。定年が近かつたこともあって、定年後に空気がきれいである豊かな日立の家でできる仕事がないかと考えるようになりました。妻がヴァイオリン教室を開いて

イオリン工房の老舗が多くて、わざわざ楽器を送ったり持参したりしてメンテナンスをしてもらっていたんです。私は元々木工細工が好きでしたので、今からでも勉強できないかと考えたんです。

当時、東京に代官山音楽院という学校があり、夜間に通えるということで、仕事をしながら3年間通いました。

そこで基本的なことはすべて専門の講師に教わりながら技術を習得していきました。ほとんどが実技で、修行のようでした。とても充実していた3年間でした。

弓の毛の張替えなどの簡単なメンテナンスから、大きな修理作業まで一通り行い、月に十数件の依頼があります。

一人でやっておりますので、受けられる依頼数にも限界があります。弦楽器を扱う工房は県内でも数軒、それも水戸



普段お目にかかれない工具たち

以北は私しかいませんので、可能な限りお受けするようになっています。

古い楽器の修理だと、自然の木で作られていたものが変形してしまつたものをもとの形に矯正したり、また無くなつてしまつた部品を一から作つたりと時間がかかる場合があります。木の

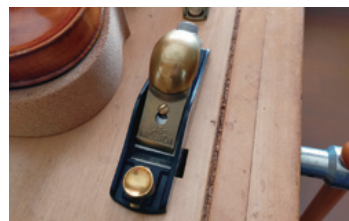
パーツを、釘を使わずに二カフで付けているだけですので、ある条件下で剥がれて分解修理ができるようになっていま

す。16世紀からずっと同じ作り方で現代に至っています。私の扱うものでも200年前のものもありますよ。

道具にもこだわりがあります。専用の工具は海外からほとんどを輸入してあります。鉋(かん)をひとつとっても大きさが種類まで様々です。部位や部品によって工具を使い分けて仕上げていきます。

そんな中でも日本の物が良いと思えますね。鍛冶屋さんに発注して揃えました。

ヴァイオリンはひとつひとつが違つていて同じものがあ



上:日本とは形状も使い方も違う鉋
下:部位部品によって工具を使い分ける

りません。一つずつ丁寧に調べて、どのように修理するべきかをお客様にお伝えします。また、使っている楽器の状態が良くない状態であると気づかずに使っている人も多いんです。楽器は正しくメンテナンスをおこなうことで何百年も美しい音楽を奏でられます。定期的に見せていただければ楽器の健康状態をお知らせすることもできます。その楽器本来の力を出せるようにして良い音楽を演奏してもらえたらと思います。

（笑）

ふるさと探訪パートII- 82



荒木一門の花鳥画と茨城・日立（2）

大森 潤也（日立市郷土博物館学芸員）

後継者・荒木十畝と「守旧漸新」
1892年（明治25）に寛畝の門に入った荒木十畝は、翌年には寛畝の養子となり、1915年（大正4）に寛畝が没すると十畝は読画会のリーダーとして新しい日本画の在り方を構想する。彼は古い手法・考え方も、急進的な西欧絵画への傾倒も、それぞれでは新しい日本画の創造を妨げると考えた。そこ

で打ち出したのが双方を止揚する「守旧漸新」の中庸主義である。
綿密な自然観照によって対象と同化し、その「有情性」を汲み取ってはじめて表現たりうるという十畝の認識は、歴史や文学を題材にして思想性を表現しようとする日本美術院の画家たちの試みなどと比較すると、より神秘主義的なものようでもある。「自然は言葉なくして形を以て告げる。この形の言葉解せざる者は藝術家の資格なし」（荒木十畝『東洋画論』1942年）

という言葉は、西洋的写実を駆使しながら東洋的感性を描き出すとした彼の芸術観を伝える。大正時代に十畝の筆致は柔らかく繊細なものになっていく。これは描法の変化のみならず、当時の美術の多様な拡がりに対応したものとも思われ、五島耕畝らにも波及して、読画会の花鳥画を特徴づけている。

茨城・日立ゆかりの画家たちと茨城美術展
茨城県出身の読画会・荒木一門の有力画家としては、日立の五島耕畝と関啓畝、藤代の永田

春水が挙げられる。五島耕畝は前号で紹介したとおり古株であり、正確な自然観照にもとづく花鳥画は、ことによつては十畝よりも実直に寛畝の画風を敷衍しているかのようでもある。耕畝の親戚筋にあたる関啓畝は、早世してしまっただゆえに残された作品が少ないことが惜しまれるが、代表作にみられる卓抜な描写力と、琳派風に反復する装飾的な画面構成には目を眩るものがある。

永田春水は東京美術学校で寺崎広業らに師事した後に寛畝門下となった経歴を持ち、一門の中でもひととき繊細かつ優美な画風を示す存在である。その作品は昭和初期に帝展で連続特選を受けるなど高く評価された。彼らはいずれも官展で活躍することにも、1923年（大正12）に発足した日本画団体である茨城美術展（茨展）の主要メンバーでもあった。いはらき新聞社の主催で1940年（昭和15）まで続けられた茨城美術展の審査員は当初は横山大観、下村観山、木村武山、小川芋銭など日本美術院勢が中心であったものの次第に官展系作家が加わ



関啓畝《向日葵図》昭和2～9年（日立市郷土博物館寄託）

る。榎村白圭は1922年（大正11）に上京して絵画を学び、昭和戦前期に再興日本美術院展で入選・受賞した作家である。繊細かつ静穏な花鳥画に独自の境地を見せ、初期の代表作《秋》は中央画壇でも高く評価された。

むすび

読画会・荒木一門は1944年（昭和19）に荒木十畝が亡くなって以降に消滅してしまい、今日に至って顧みられることが少ない状況といえる。とはいえ彼らの作品は、花鳥画という側面から日本画の近代化を押し進めた存在として決して軽視できない。彼らによって連綿と受け継がれてきた「花鳥風月」の自然観が現代的な表現の中に拡散し、現代の美術家それぞれの作品に散見するように思われる。

読画会や茨城美術展で活躍した画家たちの作品に、再び注目が集まることを願ってやまない。

読画会や茨城美術展で活躍した画家たちの作品に、再び注目が集まることを願ってやまない。



① 俳句の世界と星

今回は、テレビでも注目されている俳句の世界と星のコラボレーションです。

皆さんも月や星が登場する俳句をご存じでしょうか。例えば小林一茶の「名月を取ってくれろと泣く子かな」、松尾芭蕉の「荒海や佐渡に横たふ天の川」、与謝蕪村の「菜の花や月は東に日は西に」など名句があります



「カブトムシ」には「琥珀の弓張月」という歌詞が出てきます。そんな季語の中には星の名前そのものが登場することもあります。その名は「オリオン」冬の季語です。同じ冬の季語で「天狼」という季語があります。これは1等星の中でも一番明るいおおひぬ座の「シリウス」のことです。俳句素人の私には聞きなれない「星

が、私たちの身近にも天体に関する季語を見つけることができます。それは、歌の歌詞にも登場します。大塚愛さんの「プラネタリウム」という曲は「夕月夜」という季語で始まります。aikooさんの

入東風(ほしのいりこち)という季語があります。聞きなれないと書きましたが、この季語を最近テレビ番組「レバト」の俳句コーナーでレザラモンRGさんが使っていましたね。ここに登場する「星」とは「昴(すばる)」のことで初冬の季語です。また、夏の季語「麦星」はつしがい座の1等星「アルクトウルス」を、秋の季語の「碓星(いかりぼし)」はカシオペア座を表しています。皆さんもよくご存じの七夕の星「織姫星(ヘガ)」と「彦星(アルタイル)」は秋の季語で「二つ星」として登場します。また、「天南星の花」という季語の「天南星」は花の名前ですが恒星の中で2番目に明るい星「カノーパス」に由来するそうです。このように特定の星を意味する季語もあるのです。

先ほどの句にも出てきた「名月」や「天の川」、これ以外にも「三日月」「流れ星」「朧月(おぼろづき)」「十六夜(いざよい)」など、比較的聞き慣れた言葉も季語です。もちろん「月」も季語の一つで上弦の月や下弦の月を表す「上り月」「降り月」という季語もあります。皆さんは「有明月」という季語をご存じでしょうか。満月から新月に向かう途中の月ですが、「夜が『明』けても空に『有』る『月』」という意味で、俳句の中では少し寂しい局面に使われることがあります。特に三日月を裏返したような有明の月は、深夜に昇り、明け方になっても空に残っているため、好きな人はずっと待っているうちに夜が明けてしまった寂しさを表します。



日立シビックセンター 催し物ご案内

Tricolor BIGBAND LIVE

日時 3月19日(日) 午後3時開演
会場 日立シビックセンター 多用途ホール
料金 全席自由 3,000円
● 未就学児入場不可
申込み 1月15日(日) 午前10時～

東京フィルハーモニー交響楽団 日立特別演奏会

～氷上のオーケストラコンサート～

日時 2月4日(土) 午後3時開演
会場 日立シビックセンター音楽ホール
出演 出口大地 (指揮)
廣津留すみれ (ヴァイオリン)
田添菜穂子 (ナビゲーター)
料金 全席指定 一般 5,000円
ステージサイド席 4,000円
高校生以下 2,000円
申込み受付中 ● 未就学児入場不可

東京フィルハーモニー交響楽団、4年ぶりの日立公演!
毎年冬に注目を浴びるスポーツといえばフィギュアスケート。フィギュアスケート界の名演を生み出した音楽を、オーケストラの生演奏にてお送りいたします。氷上を彩る数々の音楽を、お話つきのコンサートでお楽しみください。

この演奏会は、観客の感動を受けて開催します。
<https://ja-cyrc.jp>

中川賢一ファミリーコンサート

日時 3月21日(火祝) 午後2時開演
会場 日立シビックセンター音楽ホール
出演 中川賢一(ピアノ)、
鶴木絵里(ソプラノ歌手)、
國末貞仁(サクソ)
料金 全席指定
一般1,200円、高校生以下500円、親子ペア1,500円
● 5歳未満入場不可
申込み 1月28日(土) 午前10時～

シビックメンバーズ各200円引、特別会員各300円引

申込み・問合せ 日立シビックセンターチケットカウンター TEL 0294-24-7720



扁額

開催された
たが、秋に
できなかつ
での奉納は



諏訪神社拝殿

訪の「くま」
だが、今年も
コロナ禍の
ため本来の
神社の例祭

日立市には市内七か所に「ささら」が伝えられている。その中で、諏訪町にある諏訪神社の「ささら」を見学する機会を得た。
諏訪神社に行く、まず目につくのは急な階段を登った先にある鳥居と拝殿とに掛かる扁額。ここに「諏訪第二宮」と書いてある。諏訪神社の本社は、長野県諏訪市にある信濃国一之宮・諏訪大社だがその第二の神社だ、と堂々と名乗っているのだ。氏子たちの誇りを感じてみる。



二人のしゃぐま

動かしなが
な体を精一杯
を持ち、小さ
麗に飾り付け
られた棒と鈴



獅子頭

左甚五郎の作
だ、と伝わっ
ているが、さ
らうか。

「獅子」は大獅子、中獅子、雌獅子の三匹（関東地方で典型的な三匹獅子舞の構成）で、黒く長い羽を付けた獅子頭をかぶり、太鼓を打ちながら体全体を大きく動かして舞う。その獅子頭はあの有名な

「しゃぐま」は赤い衣装を着て、「サイ」とよばれる綺麗な飾り付けられた棒と鈴を持ち、小さな体を精一杯動かしなが

「しゃぐま」は赤い衣装を着て、「サイ」とよばれる綺麗な飾り付けられた棒と鈴を持ち、小さな体を精一杯動かしなが

「諏訪のささら」は全部で十二段あるそう、それぞれ、祭神（建御名方命）のお出ましから、自然災害の回避、五穀豊穡の祈りなどの意味がある。十二段をすべて演じることを「一庭摺る（ひとにわがる）」というそうだが、約四十分かかるという。



ひたち秋祭り

今回演じた中では、「しゃぐま」を演じた小学校二年生が最年少。十五分程度の「ささら」であつたが、演者全員が疲れ切っていたのが分かるほどの重労働であつた。

「諏訪のささら」は全部で十二段あるそう、それぞれ、祭神（建御名方命）のお出ましから、自然災害の回避、五穀豊穡の祈りなどの意味がある。十二段をすべて演じることを「一庭摺る（ひとにわがる）」というそうだが、約四十分かかるという。



二人のしゃぐまと3匹の獅子・後ろにお囃子

獅子たちを先導するように舞う。衣装から見ると女性の役なのだろう。お囃子は、場面に応じて物静かな調子から荒々しい調子などへと自在に変化していった。

日立市民会館・多賀市民会館 催し物ご案内

演劇ユニットチーム無印公演
「アンフォゲッタブル」

ひたち街角小劇場 第57弾

日時 1月21日(土) 午後 5時
22日(日) 午前11時、午後 3時 開演

会場 多賀市民会館ホール

料金 全席自由 一般 1,500円 (当日300円増)
高校生以下 無料 (要事前予約)




第33回 ひたち童謡のつどい

日時 1月15日(日) 午後2時開演
会場 日立市民会館ホール

出演 第1部 茨城キリスト教大学附属認定こども園せいじ園、おもり保育園、かみね保育園、日立市少年少女合唱団、ひたち童謡を歌う会
第2部 鈴木翼、ロケットくれよん

料金 全席指定 一般 1,000円 (当日200円増)
3歳~中学生以下 500円 (当日100円増)
親子ペア 1,200円

●シビックメンバーズ 一般 900円、3歳~中学生以下 450円、親子ペア 1,150円



劇団飛行船マスクプレイミュージカル
くまのがっこう すてきな すてきな おくりもの

日時 2月9日(木) 午前10時30分開演
会場 日立市民会館ホール

料金 全席指定 前売 2,800円 (当日200円増)
親子券 1人につき 2,000円


●シビックメンバーズ 2,600円
特別会員 2,500円



はやしべさとし 三十歳の旅立ち
~叙情歌を道づれに~ 目立編

日時 2月4日(土) 午後3時開演
会場 日立市民会館ホール

料金 全席指定 6,600円
●未就学児入場不可



ひたち街角小劇場 10周年記念公演が行われました



代子夫人を題材とする劇を制作しました。劇中ではさまざまな吉田メロデーが流れ、曲作りに全てを捧げた吉田正氏とその生涯を支え続けた喜代子夫人の物語を美しく彩りました。

当初この芝居は今年3月に上演する予定でした。しかし新型コロナウイルスの影響で公演準備を進めることが困難となったため、公演を延期し10月に仕切り直すことを決定しました。また公演延期に伴い配役も大幅に入れ替え、台詞を変更する等さまざまな面で見直しを行いました。

1年以上を制作期間に費やしましたが、その甲斐あって

300人を超えるお客様に足を運んでいただきました。公演後にはお客様から「中身が濃いながらも、飽きず疲れず観る事ができた」「吉田先生の人生を知れて、曲がとても心に響いた」「日立ならではのテーマの演劇という点が良かった」といった声をいただきました。沢山のお客様に観ていただき、ご満足いただけたことに制作スタッフ一同胸をなで下ろしています。

舞台上に立って観客の目の前で表現する演劇は、テレビドラマや映画にはない独特の臨場感を伴います。これこそが演劇の醍醐味です。ひたち街角小劇場は、これからも演劇を通してお客様に感動と興奮を届けられるようさまざまな演劇公演を企画制作していきます。今後の公演にどうぞご期待ください！

2011年の東日本大震災をきっかけにスタートしたひたち街角小劇場は、「演劇で街を元気に」を合言葉に、日立から水戸で活動するさまざまな劇団によって演劇公演やワークショップを開催してきました。活動開始から10年という節目を迎える10月15日(土)、16日(日)に多賀市民会館ホールで記念公演が開かれました。「いつでも夢を」吉田正と喜代子の夢」と題し、日立市出身で戦後日本を代表する作曲家である吉田正氏とその妻・喜



私たちの文化のバックナンバー

財団HPにて好評掲載中!



(<http://www.civic.jp/hitachi/magazine>)

編集後記

◆常に気をつけているつもりではあるが、勝手な思い込みから今号とある間違いをしでかすところだった。■表紙の写真を決め、どのような文章を組み合わせようかと思索していた時のことを。写真の朝焼けの美しさに心を動かされ、日の出とともに動き出す街や人々を軸にして書くことと構想を立てた。◆大まかな文章を書き上げ、細部の推敲に移ろうと思った矢先、隣の机からこちらを横目で見ていた後輩がポツリとこの写真、夕方に撮ったものじゃないですか? ■成程確かに西の空の方がより濃い赤色に染まっているし、なにより通路がライトアップされているのだから早朝のはずがない◆すんでのところ勘違いがそのまま通ってしまうところだったが、これに気づき文章を一から書き直して事なきを得た。これだから思い込みは恐ろしい。(A)

表紙の写真



妹島和世氏の設計によって2011年にスタイリッシュなデザインに生まれ変わった日立駅。発車メロデーには日立市出身の作曲家・吉田正氏の曲「いつでも夢を」が「寒い朝」が使われる。市民の交通手段として広く利用されるほか、日立市の玄関口として市外からの来訪者を迎え入れている。

撮影は滑川本町の和田浩司さん。ふるさと日立カレンダー応募作品から拝借しました。

発行 公益財団法人日立市民科学文化財団
「私たちの文化」編集委員会

〒317-0063 日立市若葉町1-5-8 日立市民会館内
TEL 0294-22-6481 FAX 0294-22-6633
HPアドレス <http://www.civic.jp>

※ご意見・ご感想をお寄せください。

